

# 高　　き　　を　　め　　ざ　　す

## 新機種「ハネウェル DPS 8/70」導入記念の辞

国士舘大学電子計算機センター

前センター長　　大　　類　　純

1975年 4月に本学に電子計算機センターが創設されていらい、この創成期にあつては FACOM 230-28 (128 KB), 同じく 230-38 (384 KB) の機器を専用し、その受けた恩恵と本学の情報処理教育と研究の躍進に資するところは、まさに計り知られざるものがあつたといえる。

爾来、現今の社会でのあらゆる部門・分野でのコンピューターの急激な需要は周知の事実であり、これに呼応して本学もまた同一の趨勢にあり、学生のあいだにもその習得と適用の要望が加熱的速度をもって迎えられているのは、当然の実情である。

これら重且つ大なる要求に応ずるとともに、時あたかも文部省の上位機種更新に相当する時期にも当たっているのに鑑み、従来の機種によっては既に対応・打開することが不可能な点を解決・前進させるために、新機種を導入・設置することが不可欠のこととなった。よつて昨年6月、運営委員会内に新機種導入部会を設け、一年半にわたつて凡ゆる角度からの徹底的な性能と即応の検討、厳密・慎重な調査・研究の結果、現在果し得る最大の多次元な処理を可能ならしむるものとして、卓越した最新精鋭機種 HONEYWELL DPS 8/70 (8メガバイト) が選定されるに到つた。

去る8月23日に待望の新機種が搬入・設置され、9月6日からは学内利用者に向けて稼動が開始された。また、センターがシステムメーカー・ハネウェルと協力して、コンピューターが得意とする「情報の超高速処理」「巨大な記憶量」など多くの特技をフルに活用して、大型コンピューターを主軸とするオンライン・システムへ発展した。そのため、従来センターより“定期便”として鶴川校舎に出向いて学生の実習カードを集約し、センターの本体にかけて処理して再返送するという不便・不当性も一挙に一掃された。新機種より鶴川校舎に分室も設置され、同様の教育的利用が可能となつたのは、本学における画期的発展である。

ここに、従来の約10数倍の処理速度、20～30倍の処理能力という、私立大学でも屈指の大型機の導入となり、本学の情報処理教育と研究の設備と環境は、飛躍的な発展を見るに到つた。

先ず、私立大学ではトップ・クラスを誇る超大型システム DPS 8/70 は、MULTICS, CP-6 などの OS を稼動させ得る世界唯一のハードであり、次のごとき諸点に著しく大きな特徴・長所があるといふことができる。

第一に、中央演算処理装置が大きいこと。

バッチ処理のみならず、TSS（時分割利用・対話形式）処理方式をも可能にしたこと。すなわち、TSS 端末台数を多く接続できる。現在計42台で、この級は私立大学でも僅か3、4校を数えるに過ぎない。しかも、現状でこの3、4倍に増えても実用域で十分使用が可能であり、これは現行他の私立大学では果すことはできないものであろう。

ついで、各種大型ソフト・ウェア（データ・ベース、ANVIL-4000ほか）を運用時間帯に並行稼動を可能ならしめたこと。また、各種処理形態での同時利用が実用域で可能になったことが挙げられる（TSS とバッチとリモート・バッチとオンライン・リアルタイム）。

第二に、アプリケーションの飛躍・拡大を計ったこと。

先ず、日本語（漢字）の取扱いを可能にした（日本語システム）。さらに、種々の図形処理に万全の体制をとったこと。すなわち、オンライン：オフライン双方で、しかもモノクロ、カラー、自動製図、グラフィックなどの各種図形処理を実現したことで、これは私立大学では最初の快挙であろうか。且つ、CAD/CAM (Computer Aided Design/Computer Aided Manufacturing) 用の大型ソフト・ウェア ANVIL-4000 は、日本で初めての稼動を実現することになるのである。

ここに本年10月1日をもって、本学電子計算機センターに超大型システム新機種 HONEYWELL DPS 8/70 が導入・設置・稼動されたことを祝し、その壮挙を記念して、一言紹介の燕辞を連ねるにいたったことは深い喜びである。

本学センターがたゆまず成長するためには、今後ユーザーの真摯な使用と実験を期待する。そして、ユーザーの建設的声は、センターの育成の上に必要欠くべからざる要素である。願わくは、教職員・学生をふくむ多勢のユーザーが、研究・教育・学習にこの至宝の機器を積極無尽に利用活用し、研鑽を積んで見事に大輪となって学問の花を開かせるように。

（1982年11月8日 受理）